

顔のどのパーツが第一印象を形成するのか

—マスクやサングラス着用が初対面や なじみのある人物の印象評定に与える影響—

市川 満葵*・沖林 洋平**

What Part of the Face Constructs the First Impression of Strangers and Friends?
The influence of wearing a mask and sunglasses on impressions of a stranger at
first meeting and of a familiar person

ICHIKAWA Miki*, OKIBAYASHI Yohei**

(Received September 29, 2023)

The purpose of this study was to experimentally examine the effects of wearing masks and sunglasses on the impression rating of a person in a COVID-19 pandemic environment. In this study, two groups were set up for the degree of familiarity with the person of the stimulus, one with a first meeting and the other with a four-year personal relationship. The experiment was conducted with first-year and fourth-year undergraduates, and the results of impression ratings using the SD method showed that for females meeting for the first time, wearing a mask decreased familiarity with the stimulus more than with the standard stimulus. For males in the first meeting group, wearing sunglasses decreased forcefulness. In the group with higher intimacy, these impressions were not reduced. Cluster analysis using the participants' consciousness of their public appearance as the dependent variable revealed two clusters, one for the high and one for the low level of awareness of others. Comparing the two groups' ratings of men who met for the first time, the cluster with low awareness of others showed a decrease in forcefulness due to the wearing of the mask, whereas the cluster with high awareness of others showed no decrease in forcefulness.

Key Words: First Impression, Face Recognition, Mask, COVID-19

はじめに

本研究の目的は、目や口などのパーツが隠れることによって、人物の印象評定にどのような影響を及ぼすかを実験的に検討することである。2020年度から2022年度まで、我が国の学校教育ではマスクの使用が求められていた。2022年度に大学を卒業したものは、一般的に2019年度の入学生である。この場合、2年時以降は大学ではマスクを着用することとなる。そのため1年時に同学年の仲間などとの交流がなかったり少なかったりしたものは、マスクを外した顔を知らないということになる。本研究は、そのようなCOVID-19の流行下におけるマスク着用

が人物の印象評定に及ぼす影響について検討することを目的とした。マスク着用が顔の印象に及ぼす影響については、マスクの色の影響（伊藤・河原, 2019）、マスクの大きさの影響（Miyazaki & Kawahara, 2016）が研究されている。そこでは、マスク着用によって、もともとの魅力が高いものほど見た目の魅力が下がるというマスク効果の2要因モデルが提唱されている（河原・宮崎・伊藤・鎌谷, 2020；Miyazaki & Kawahara, 2016）。

以上の研究は、人間の印象評定にはマスクがネガティブな影響を及ぼすことを示している。ただし、用いられた刺激は実験参加者にとってなじみのない人物が写され

* 廿日市市立廿日市小学校, 〒738-0015 広島県廿日市市本町2-13, 0829-32-2251

** 山口大学教育学部, 〒753-8513 山口市吉田1677-1, yoki@yamaguchi-u.ac.jp

たものである。日常的な人間関係は、なじみのある人物との間で形成されることが一般的であるだろう。

人物の第一印象の形成までに至る時間は0.1秒で形成される。人間、生まれつき顔に関心を払う (Todorov, 2017)。顔に対する注意バイアス及び人生初期の視覚経験が、顔は情報提供的な価値をもつと私たちに信じさせ、社会的コミュニケーションを助けている (Todorov, 2017)。しかし、顔の何がその印象をもたらしたのか、私たちは分かっていない状況で、見かけの情報に頼っている。また、顔は常に変化しており、その解釈も異なる状況で急速に変化している。ではCOVID-19の流行下においてマスク着用の日々が続く、顔の約半分が隠れているなか、私たちはどのように第一印象を形成しているのだろうか。

本研究では、マスク着用による第一印象の形成の変化や、第一印象となじみのある人物に対する印象の違い、顔の要素が第一印象の形成にどのように影響するのかについて実験を行った。人物の印象評定に関する心理学的研究の先行研究の例として、自分を対象としたもの (田名場・佐藤・佐々木・田名場, 2003) や大学教員に対する印象を検討したもの (豊田, 2003, 豊田, 2005)、また、印象を形成する実験参加者の性格特性の影響についても検討した。

方法

実験時期 2023年1月に実験を実施した。

調査参加者 本研究では、195名の大学生が調査に回答した。このうち、刺激に対して面識があるものは16名、面識のないものは179名であった。面識のないものの平均年齢は19.32歳 (SD=1.36)、面識のあるものの平均年齢は22.24 (SD=0.31) であった。

調査項目 本研究では、以下の項目を用いて調査を行った。1. 印象評定用の刺激として顔写真8枚を用いた。本研究では、男性と女性1名の写真を用いた。男性と女性の写真それぞれで、真顔、サングラス着用、マスク着用、サングラスとマスク着用の4種類を撮影した。その結果、8枚分の顔写真を印象評定用の刺激として用いた。2. 印象評定用のSD法の項目を用いた。本研究では、豊田 (2005) で用いられた3因子15項目を用いた。項目内容は、個人的親しみやすさの観点から、感じのよい-感じのわるい、人なつっこい-近づきがたい、人のよい-人のわるい、親しみやすい-親みにくい、親切な-いじわるな、社会的望ましきの観点から、責任感の強い-無責任な、慎重な-軽率な、重厚な-軽薄な、分別のある-無分別な、意欲的な-無気力な、力本性の観点から、社交的な-非社交的な、積極的な-消極的な、恥ずかしがりな-恥しらずの、うきうきした-沈んだ、

堂々とした-卑屈な、であった。そして、この15項目について7段階評定尺度を用いた。3. 調査参加者の性格特性を測定するために、ビッグファイブから、外向性・調和性・情緒不安定性に関する9項目を用いて、それに本研究独自で設定した6項目をあわせて、合計15項目を用いた。これら項目をTable 1に示す。

性格特性に関する項目1から6について因子分析を行った。因子分析は、プロマックス回転最尤法を用いた。平行分析の結果、3因子が抽出された。項目no1を「外見地震」、2, 3, 4, 5と、6であったno1は「自分の外見に自信がある。(外見自信)」, no2から5を総合して「外見意識」、no6は「他人を外見で判断することが多い。(外見判断)」であった。面識がなかったものを対象に、no1の得点、外見意識の平均値、no6の得点を従属変数としてクラスタ分析を行った。デンドログラムとクラスタ平均値をもとに、本研究では2クラスタが妥当であると判断した。Figure 1にクラスタの特徴を示した。

ビッグファイブの項目について、外向性、情緒不安定性、調和性の得点を従属変数として、クラスタ分析を行った。デンドログラムとクラスタ平均値をもとに本研究では2クラスタが妥当であると判断した。Figure 2に

Table 1 性格特性に関する項目の平均値 (M) と標準偏差 (SD)

no		M	SD
1	自分の外見に自信がある。	2.81	1.43
2	他者からの自分の外見の評価が気になる。	4.68	1.66
3	自分の容姿に気をかけている方だ。	4.21	1.47
4	他人の外見を羨ましく思うことがよくある。	5.11	1.71
5	他人の容姿について気になる。	4.74	1.59
6	他人を外見で判断することが多い。	4.19	1.46
7	自分は話し好きである。	4.39	1.74
8	自分は素直である。	4.46	1.58
9	自分は心配性だと思う。	5.4	1.57
10	自分は外向的である。	3.49	1.65
11	自分は神経質である。	4.36	1.68
12	自分は悩みがちである。	4.89	1.81
13	自分は親切だと思う。	4.67	1.25
14	自分は協力的である。	4.81	1.31
15	自分は積極的である。	3.79	1.51
	外向性	3.89	1.32
	情緒不安定性	4.89	1.41
	調和性	4.64	1.08

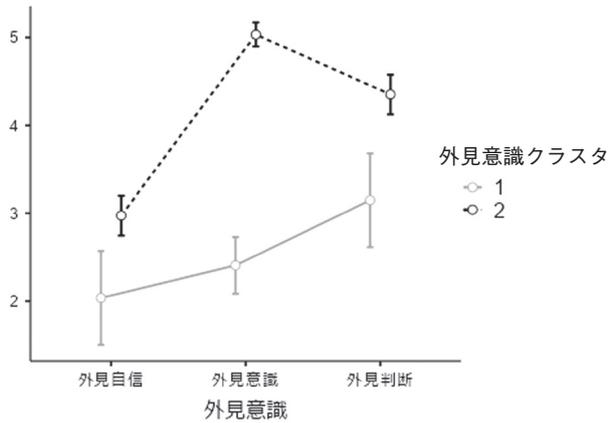


Figure1 外見意識クラスタと外見意識因子の関係

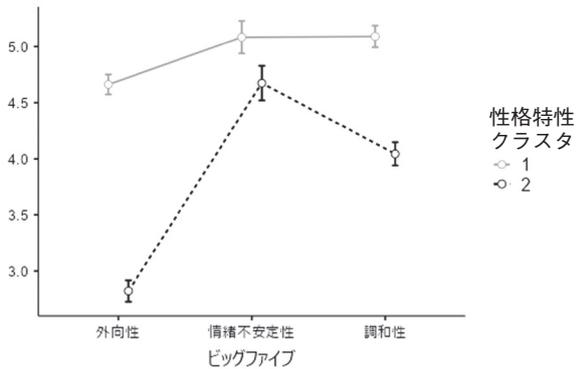


Figure2 性格特性クラスタと性格特性因子の関係

クラスタの特徴を示した。

刺激写真の人物に面識がないものを対象として、刺激写真の性別 (2), 刺激の種類 (4), 印象評定次元 (3) を実験参加者内要因とする3要因分散分析を行った。刺激写真の性別と刺激の種類の交互作用 ($F(3,528) = 52.46, p < .001, \eta^2 = 0.23$), 刺激の種類と印象評定次元の交互作用 ($F(2,352) = 3.57, p < .001, \eta^2 = 0.02$), 3要因の交互作用 ($F(6,1056) = 27.14, p < .001, \eta^2 = 0.13$) が有意であった。次に、刺激写真の人物に面識があるものを対象として、刺激写真の性別 (2), 刺激の種類 (4), 印象評定次元 (3) を実験参加者内要因とする3要因分散分析を行った。刺激の種類と印象評定次元の交互作用 ($F(2,30) = 6.45, p < .001, \eta^2 = 0.3$) が有意であった。印象評定の平均値と標準誤差をTable 2, Table 3に示す。分散分析の結果をFigure 3, Figure 4に示す。Figure 3, Figure 4のエラーバーは、標準誤差を示す。Table 2, 3における印象のFam, Soc, Powはそれぞれ個人的親しみやすさ, 社会的望ましさ, 力本性を示す。また刺激のNormal, Glass, Mask, Bothは、それぞれサングラスマスク無し, サングラス着用, マスク着用, サングラスとマスクの両方を着用のことである。

刺激写真の男女別に、外見意識クラスタを実験参加者間要因 (2), 刺激の種類 (4) と印象 (3) を実験参加者

内要因 (3) とする3要因分散分析を行った。女性の顔写真評定においては、刺激の種類と外見意識クラスタの交互作用 ($F(3,525) = 2.44, p = 0.06, \eta^2 = 0.01$) が有意傾向であった。男性の顔写真評定においては、刺激の種類と外見意識クラスタの交互作用 ($F(3,525) = 3.33, p < 0.05, \eta^2 = 0.02$) が有意であった。外見意識クラスタにおける男性刺激の分散分析結果をFigure 5に示す。Figure 5のエラーバーは、標準誤差を示す。

Table 2 初対面の刺激に対する印象評定の平均値 (M) と標準誤差 (SE)

写真	印象	刺激	面識なし		面識あり	
			M	SE	M	SE
Female	Fam	Normal	5.19	0.08	5.06	0.28
		Glass	4.84	0.07	4.43	0.28
		Mask	3.13	0.07	2.95	0.27
		Both	2.33	0.07	2.25	0.34
Female	Soc	Normal	4.61	0.06	5.31	0.21
		Glass	4.62	0.05	4.68	0.19
		Mask	3.7	0.06	3.51	0.25
		Both	3.55	0.08	3.5	0.36
Female	Pow	Normal	4.67	0.06	4.9	0.16
		Glass	4.47	0.06	4.39	0.17
		Mask	4.35	0.06	4.39	0.25
		Both	3.13	0.07	2.81	0.31
Male	Fam	Normal	5.09	0.09	5.49	0.27
		Glass	3.89	0.09	4	0.23
		Mask	3.77	0.09	3.62	0.33
		Both	2.41	0.08	2.47	0.3
Male	Soc	Normal	4.94	0.07	5.26	0.24
		Glass	4.28	0.06	4.16	0.23
		Mask	3.87	0.07	4.02	0.24
		Both	3.49	0.08	3.4	0.36
Male	Pow	Normal	4.89	0.06	5.06	0.15
		Glass	4.04	0.06	4.86	0.73
		Mask	4.58	0.06	4.72	0.26
		Both	3.14	0.07	3.06	0.33

Famは個人的親しみやすさ, Socは社会的望ましさ, Powは力本性を略記している。

Table 3 クラスタ別の女性と男性の刺激に対する印象評定の平均値と標準誤差

印象	外見 Cl	女性顔写真		男性顔写真		
		Mean	SE	Mean	SE	
Normal	Fam	1	4.88	0.19	4.8	0.22
		2	5.24	0.08	5.12	0.09
	Soc	1	4.43	0.15	4.7	0.18
		2	4.63	0.06	4.98	0.08
Pow	1	4.59	0.15	4.71	0.15	
	2	4.68	0.06	4.91	0.06	
Glass	Fam	1	4.71	0.18	3.82	0.23
		2	4.84	0.08	3.87	0.1
	Soc	1	4.56	0.14	4.14	0.15
		2	4.62	0.06	4.29	0.06
	Pow	1	4.6	0.15	3.89	0.15
		2	4.43	0.06	4.05	0.06
Mask	Fam	1	3.42	0.18	4.03	0.23
		2	3.05	0.08	3.71	0.1
	Soc	1	3.73	0.16	4.07	0.18
		2	3.68	0.07	3.82	0.08
	Pow	1	4.46	0.16	4.56	0.16
		2	4.33	0.07	4.58	0.07
Both	Fam	1	2.68	0.18	2.79	0.19
		2	2.28	0.08	2.36	0.08
	Soc	1	3.63	0.19	3.81	0.2
		2	3.56	0.08	3.46	0.08
	Pow	1	3.36	0.19	3.42	0.17
		2	3.1	0.08	3.11	0.07

考 察

本研究の目的は、サングラスやマスクを着用することが他者の印象評定に及ぼす影響について検討することであった。印象評定における対象との面識があるかどうかを操作して、対象との関係性がサングラスやマスクの着用による印象評定に及ぼす影響の違いについて検討した。本研究によって得られた結果から考えられることを以下に述べる。

性別と印象評定の関係

各性別からの評定値の違いを比べたとき、女性の顔写真と男性の顔写真の両方において、標準顔では女性からの評定が男性からの評定より高かったことに対し、顔の

要素が隠れると女性からの評定が男性からの評定より下がっていたことから、女性は顔が隠れると相手の顔への不安を抱きやすく、評定が変化しやすいということが読み取れる。梶田(1988)は自己評価的意識の構造的特徴について、男子では自己へのまなざしと他者のまなざしへの両意識が拮抗するのに対し、女子の場合は他者のまなざしに関する意識が中心的になると指摘していることから、女性は男性よりも外見を重要視するため、第一印象の形成において、顔の見かけや、顔の要素が隠れることが人物の印象評定に影響することが確認された。

印象評定の対象との関係性が印象に与える影響

第一印象評定と印象評定を比べた結果から、隠れている要素がその性格特性における印象形成に大きな影響をもたらしていると考えられる。

まず、女性の評定ではサングラス着用時の社会的望ましさにおいて、第一印象評定より印象評定の方が低くなっているということから、目が社会的望ましさを評定する際に大事な要素になっているということと、サングラスを着用している顔への馴染みがないために、その人を知っている人ほど評定が下がるということが読み取れる。一方で、男性はマスク着用顔における力本性について、第一印象の評定より印象の評定の方が有意に高いということから、口元が力本性を評定する際に大事な要素になっているということがわかり、男性と関わりのある実験参加者は、マスク着用顔に慣れているため、印象評定が変わらないということが読み取れる。コロナ禍前まではマスク着用顔は健康志向への低さを示し、魅力度を低下させる要因であったが、これらのことから、コロナ禍においてマスク着用の日々が続き、私たちはマスク着用顔に抵抗感を抱かなくなっていることがわかる。また、第一印象の評定と印象評定に有意差がみられたことから、第一印象の不正確さを読み取ることができた。実験結果全体からは、顔の印象から性格特性についての評定に変化が起きているということから、人の顔から性格を無意識的に結び付けていることがわかった。

顔のどのパーツが第一印象を形成するのか

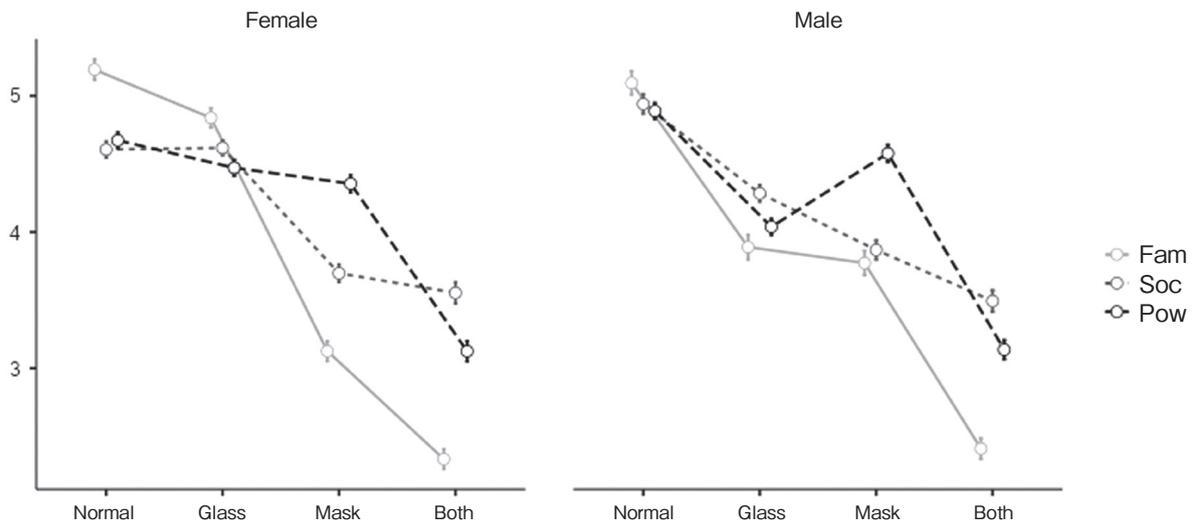


Figure3 初対面の人物の刺激に対する印象評定値

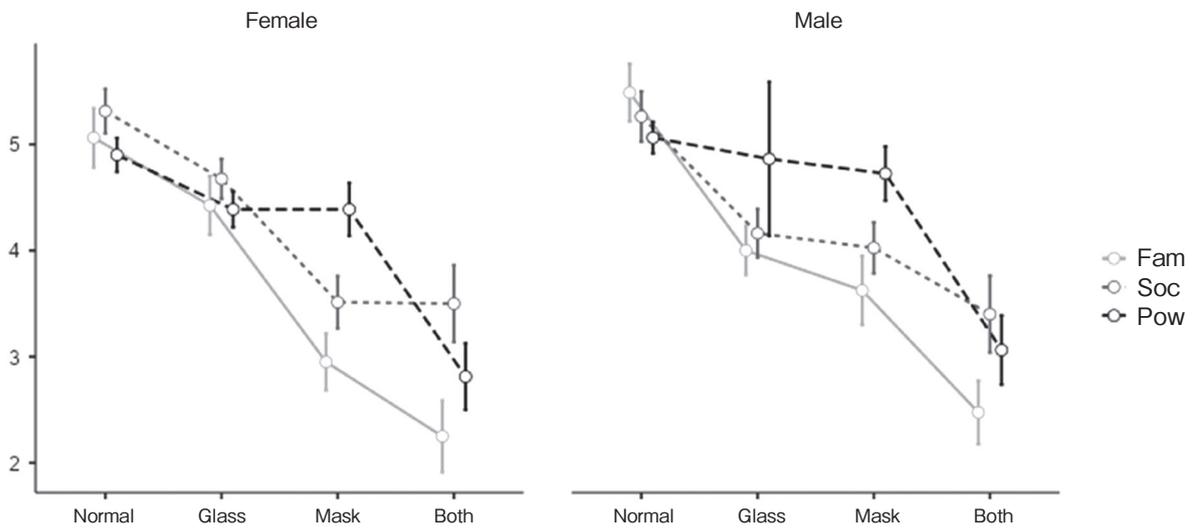


Figure4 なじみのある人物の刺激に対する印象評定値

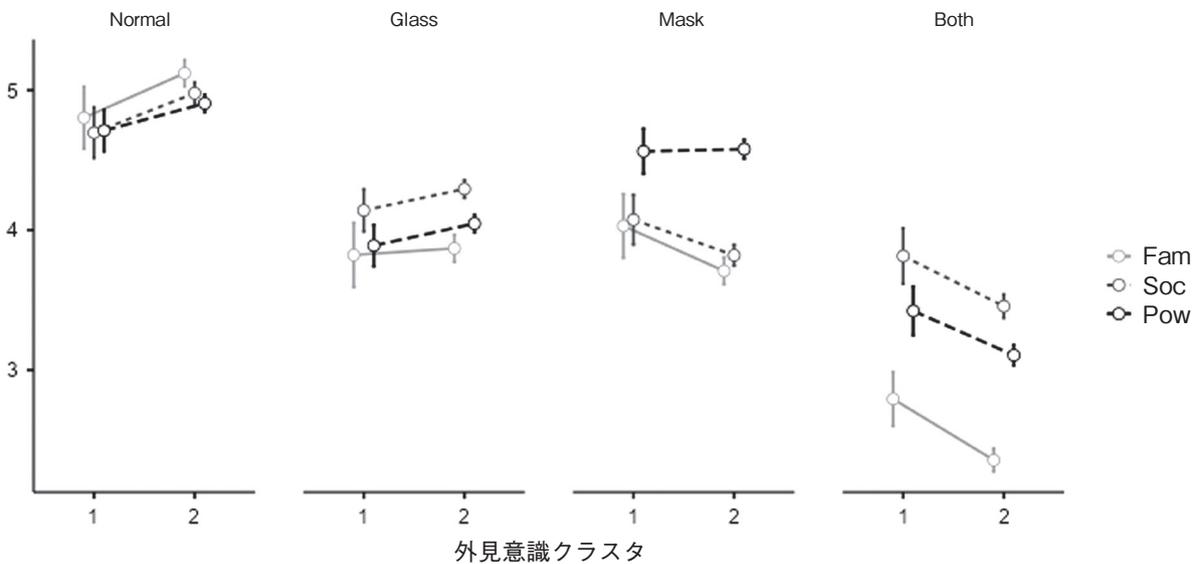


Figure5 外見意識クラスタによる男性刺激に対する印象評定値の比較

評定者の外見に対する意識が印象評定に与える影響

実験参加者の外見に対する意識をクラスタ化した結果、本研究では2つのクラスタを検出した。2つのクラスタの特徴は、他者の評価をあまり重視しないクラスタ1と他者評価を重視するクラスタ2に分かれた。クラスタ2の男性写真に対する印象評定の分析結果から、男性写真のマスク着用刺激において、親しみやすさ (Fam) と社会的望ましさ (Soc) はクラスタ2がクラスタ1よりも低く評定されるのに対し、力本性 (Pow) はクラスタ1と2で違いは見られなかった。外見に関する他者の評価を重視するクラスタ2において、親しみやすさや社会的望ましさはマスク着用により低下するのに対し、力本性は低下しないという結果が得られた。このことは、力本性はマスクによって隠れない目元の影響が大きいことが推察される。

引用文献

- 伊藤資浩, 河原純一郎. (2019). 黒色の衛生マスクの着用が印象と魅力の知覚に及ぼす影響. 北海道心理学研究, 41, 1-13.
- Miyazaki, Yuki; Kawahara, Jun-ichiro. (2016). The sanitary-mask effect on perceived facial attractiveness. *Japanese Psychological Research.*, 58, 261-272
- 田名場美雪・佐藤清子・佐々木大輔・田名場忍. (2003). 自己認知における「私」「みられる私」がパーソナリティの満足度に与える効果について. 弘前大学保健管理概要, 24, 12-19.
- Todorov, A. (2017). *Face Value: The Irresistible Influence of First Impressions*. Princeton University Press.
(中里京子 (訳) 作田由衣子 (監修) (2019). 第一印象の科学 みすず書房)
- Todorov, A., Mandisodza, A.N., Goren, A & Hall, C.C. (2005). Inferences of Competence from Faces Predict Election Outcomes. *Science*, 308, 1623-1626.
- 豊田弘司 (2003). 大学教授の好かれる特徴と嫌われる特徴 - 評定尺度による検討 - 奈良教育大学教育実践センター紀要, 12, 31-35.
- 豊田弘司 (2005). 大学教授の好意度を規定する対人認知の次元 奈良教育大学教育実践センター紀要, 14, 1-4.

Appendix

本研究で用いた刺激のうち、女性の標準刺激とサングラスとマスクの両方を着用した刺激を示す。



1. 女性の標準刺激



2. 女性のサングラスとマスクの両方を着用した刺激